

平成19年11月1日

浜田市議会議長 牛尾昭様

議員名: 角田勝幸 (印)

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1、期 間 平成19年10月22日 ~ 10月24日。

2、視察地 滋賀県長浜市、 兵庫県神戸市

3、参加議員氏名

角田勝幸 (印) 小川泰昭 (印)

4、精算額 一人当たり 47,584円 (95,169)

5、調査活動の概要

別紙127

会派視察研修

日時 10月22～24日

場所 滋賀県長浜市 兵庫県神戸市

交通費

高速バス 瑞穂～広島 1950円 往復 7800円
広島～高円 のぞみ 38980円
新神戸～広島ひかり 8980円
○ (小川議員 浜田～瑞穂バス代+2000円)
タクシー 長浜～田中宅 2680円
神戸～むつみ会 660円
むつみ会～ホテル 820円

視察先 お土産 谷口集落 赤てん 944円
サザエ 2165円
滋賀県森林整備課 もみじ饅頭 1920円

○ 神戸市むつみ会 旭梨 3500円

宿泊代 長浜市グリーンホテル 15120円
新神戸サンホテル 11600円

浜田市議会議長 牛尾 昭様

先進地視察報告書

新生会

角田 勝幸

小川 泰昭

視察日時 平成19年10月22日～24日

視察場所 滋賀県長浜市 兵庫県神戸市

10月22日長浜市

講師 滋賀県林研グループ連絡協議会

副会長 山本 昌生

滋賀県湖北地域振興森林整備課

主任技師 中村 順一

琵琶湖森林づくり事業が平成18年4月よりスタートをし、
県民税年額800円（島根500円）4億円の事業が取り組まれて
います。

滋賀県の半分は森林で、琵琶湖の水を育み、自然災害から私
たちの暮らしを守ってくれる森林は、木材価格の低迷など社会
の大きな変化により、手入れが行き届かなくなっています。

このまま放置すれば、森林の持つ水源かん養などの機能が損
なわれ、暮らしに影響を与えることが心配されて、以下の取り
組みが行われていました。。

森林づくりの取り組みとして

針葉樹と広葉樹が混じり合った環境林への転換など「環境を

重視した森林づくり」ともう一つは、県民と共に森づくりを進める「県民協働による森林づくり」を二つの柱として取り組まれていました。

環境を重視した取り組みとして

- 1 陽光差し込む健康な森づくり
奥地に放置された人工林を強度に間伐することにより、針葉樹、広葉樹が混じり合った環境林への転換。
- 2 長寿の森奨励事業
45年を超える成熟期をむかえた森林を更に手入れの行き届いた林齢の行き届いた森林にし水源かん養機能の高い森林にする。
- 3 間伐材の利用促進
間伐材の買い取りや間伐材製品等の普及PRをする。
- 4 里山リニューアル事業
松枯れや竹の侵入などにより荒廃した里山を手入れすることで、県民のみんなが親しみ利用出来る場にする。

県民協働による森づくり

- 1 協働の森づくり啓発事業
県民税の目的や使い道をPRし、森林の大切さへの理解や、森林づくりへの参加の促し
- 2 みんなの森づくり活動支援事業
森林づくりに参画できる場づくりや、NPO等の提案による森林づくり活動への支援等をする。
- 3 未来へつなぐ木の良さ体感事業
風土にあった地域の木を積極的に使うこと啓発するため県産材の柱のプレゼント（新築100本まで）や学校へ木の

学習機などの導入。

4 森林環境学習「やまのこ」事業

小中学生などを対象とする森林環境学習を進めることで、次代の森林づくりを支える人づくりを行う。

という滋賀県の取り組みの内容を聞いた後、山本さんの集落にある、江戸時代からの森林と言うことで、杉の大木を見学いたしました。

地質にあっているのだろうが、木の高さや、木目の小さいことで、すべて銘木業者が購入に来るとのこと、一本5百万円級があちこちにある様を見て、滋賀県がこれから取り組む、森林づくりが、山本さんたち集落の山の管理方法が見本になって作製されたものと身をもって体験させていただきました。

10月23日 神戸市

特定非営利活動法人 中央むつみ会

代表理事 坂井 宗月

精神障害者作業所 ホットステーション

精神障害者グループリビング

中央むつみ会は神戸市中央区を拠点にして「中央地域活動支援センター」「グループホームやすらぎ」大安亭市場には「ホットステーション」で活動しています。

今回の研修では、共同作業所等での経営的な問題とボランティアの関係について、先進地の事例などの研修に努めました。

経営的には、何処も同じように苦勞をされているのが共通の課題でありましたが、ボランティアの関係については、地域の方と協力して出来ているのに感心しました。

地域活動支援センターは、神戸市のど真ん中の小学校が児童

数が少ないので閉校となり、その建物を「生涯学習支援センター」と障害者自立支援法に基づいて中央地域支援センター（地域生活支援事業）に移行し、日中活動や相談室にて指定相談事業などが行われていました。

学校（教育関係）から多目的への変更に二年間要したようですが障害者など多く利用されているようです。

共同作業所 ホットステーション（就労支援B型）

障害者の作業所として、大安亭市場の中で、ケーキの製造販売が行われていました、建物は、魚屋さんが廃業され、それを借りて作業所とされていますが、建物の一部改造は持ち主よりしていただいたそうで、福祉に関心のある方だと感心しました。

当日は障害者7名で、私たちも一緒に「ミーティング」に参加させていただきました。

驚いたのは、みんな明るく協力しあっていました、浜田のことを話すと、みんなでお金をためて行ってみたい、というグループのまとまりがあり、すばらしい活動をされているし、いいスタッフにも恵まれて、参考になりました。

主な作業内容は、クッキー、バウンドケーキ、パンの販売、清掃の請負、デコパージュ石けん、竹炭の製作、レトルト食品の製品化、市役所や企業よりの資料の発送などが行われていました。

資料の発送など、浜田市でも利活用して、障害者の支援策に結びつくのではないかと、検討する課題として受け止めました。

精神障害者グループリビング

グループリビング、こちらでは高齢者のリビングは見受けませんが、精神障害者等を対象にしたものははじめて聞きました。

内容は、障害者を医師、保健所、支援センターの三者が連携して、グループで生活支援を行うもので、視察に行ったのは、空屋を借りて、5人で生活していました、

指導員が一人で夕食のみづくり、日常の入浴、洗濯、朝ご飯は自分たちで実施しているようです。

日中は支援センターなどの共同作業所で働いて、その収入から家賃等を支払い生活しているとのことですが、何かあれば、すぐ三者で対応する仕組みになっているようです、他にも20人規模のがあるようですが、目の届かない部分があり、5人ぐらいが適当との事でした。

障害者の家族での支援にも限界となる部分もあり、これからこういうリビングのあり方について、早急に検討していかなければならない課題であると認識いたしました。

平成19年11月1日 提出